

観光を生かした地域活性化を目指して

今月、東京などの大都市から観光客を呼び込み、交流人口拡大によって地域を活性化させることを目的とした様々な取り組みが実施されました。

10月1日と16日には、本町の歴史などの魅力を観光客に伝える上ノ国町観光ガイド協会や、新たにガイドを志す方を対象とした研修会が開催され、1日の研修会では、青森県のガイド関係者との技術交流、16日には専門家による基礎研修が実施されました。

本町の歴史と関わりの深い青森県のガイド関係者からは、自分たちで観光関連の資料を作成し、持続的に発行する取り組みなどが紹介され、参加したガイドは「今回得た知識を今後の活動に生かしていきたい」と話し、より満足度の高い観光を目指して頑張りたいとのことでした。

10月7日と18日からは、旅行会社等を対象に、新たな檜山観光ルートを作りだすことを目的とした2泊3日のモニターツアーが行われました。

7日に本町を訪れたのは、旅行会社がモニターとして募集した関



東圏在住の12名の方々と、ガイドの案内により町内の歴史文化財や夷王山などの自然景観を目にするのと、「こんなに良いところがあるのだから、もっと宣伝してほしい」と感想を話し、まちの姿が観光客にどう映っているか、貴重な意見を聞くことができました。

また、18日からのツアーには旅行会社、レンタカー会社、航空会社といった観光に関連する企業からそれぞれ担当者が訪れ、自然景観やガイドの対応が評価された一方、「ツアーのテーマを、歴史や自然などにそれぞれ分けたほうが目的が明確になってより魅力的になる」などの鋭い指摘とアドバイスがありました。

これらは、外部の視点を取り入れることで、町内や檜山の現状を把握し、魅力を磨くために行われているもので、今回の研修会とモニターツアーから、多くの知見が得られたようです。

今後このような取り組みは継続的に行っていくことで、檜山全体が魅力的な観光エリアとなることを期待されます。

秋の果実、ほお張り笑顔

10月19日と21日の2日間にかけて、町内両保育所の園児たちがりんご狩りを行いました。

これは、季節の果物をおとして、幼い頃から食べ物に関する正しい知識を身につけさせる『食育』の観点から実施され、木ノ子地区でりんご園を営む石澤龍藏さんの協力を得て行われました。

現地では、収穫の季節を迎え、赤々と実った果実を目にした園児たちが、思い思いに手に取り、りんご狩りを楽しんでいました。

その後、収穫したりんごをほお張った園児たちからは、『おいしい』『お母さんにも持って帰る！』など、しきりに満足そうなお感想が飛び出し、上ノ国産りんごの美味しさを一口ごとに楽しんでいました。



大学との連携で未来の人材育成

9月26日、本町と弘前大学（青森県）の連携による防災教室が開催され、5・6年生55名が参加しました。これは、防災意識の向上とともに、児童たちが大学生と触れ合いながら、地域の特性を学ぶという『ふるさと学習』として行われたものです。

弘前大学は、本町の文化財発掘の際に地質調査を行った経験があり、そこから過去、上ノ国でどんな災害があつたかを把握しているなど本町と関わりが深い大学です。児童たちは、弘前大学の小岩直人教授から「津波が発生した場合、小学校まで到達する可能性がある。どうすればいいだろうか？」と問いかけられ、「走って逃げる」「高いところへ逃げる」など、自分の考えや意見を述べていました。その後、教授や大学生と一緒に小学校周囲の海抜を調べて回ると、児童たちから「どこに逃げればいいのかわかりやすかった」「大学の人が教えてくれて楽しかった」「等の声が上がり、普段はあまり意識していない防災について、楽しく学ぶことができたようです。

